

カラフル

花魁市公

ある日、ぼくはいっぴきのとりがケガをしているの
をみつけ、いえへつれてかえりたすけてやった。
すると、すっかりげんきになり、とびたって



なんにちかたったある日、いっぴきのとりがやってきたよくみるとまえにたすけたとりだった。

「たすけてくれたおれいにいいところにつれていってあげる。」

ぼくはついていってみることにした



すこしあるいていくとそこには、たくさん花がさい
ていた。きいろやピンクいろ、しろいろなどいろんな
いろがあった。

そこはぼくがずっとすんでいたまちなのにみとこが
なかった。ぼくはもっとぼくのまちがすきになった。
そして、うさぎがでてきて、

「もっといいところにつれていってあげるよ。」

ぼくととりはついていくことにした。



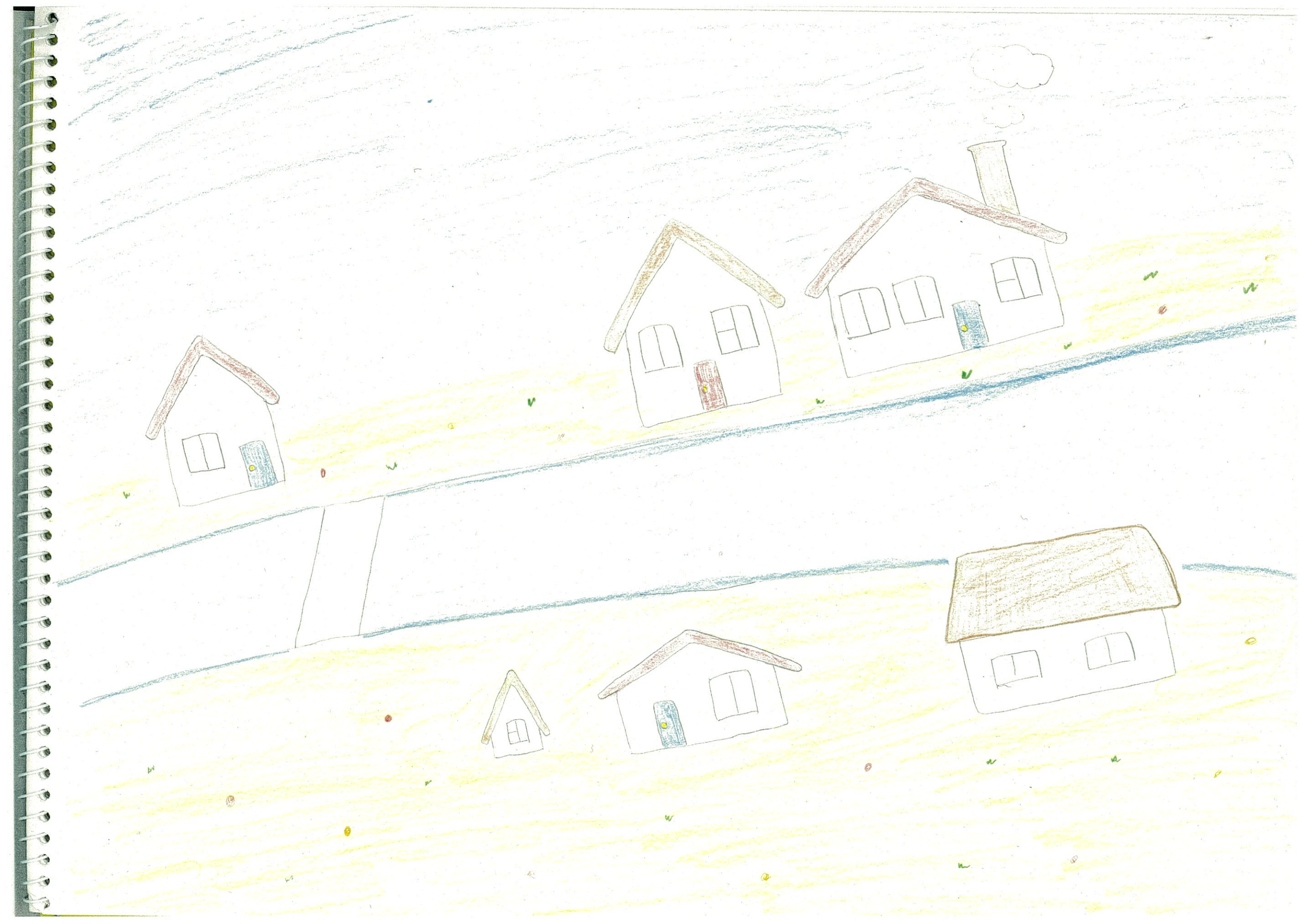
そして、どんどん山のなかへは行っていった。

うさぎが、「ついたよ。」というのでぼくはかおあげてみた。

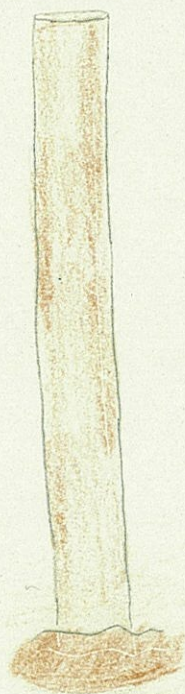
するとそこには、



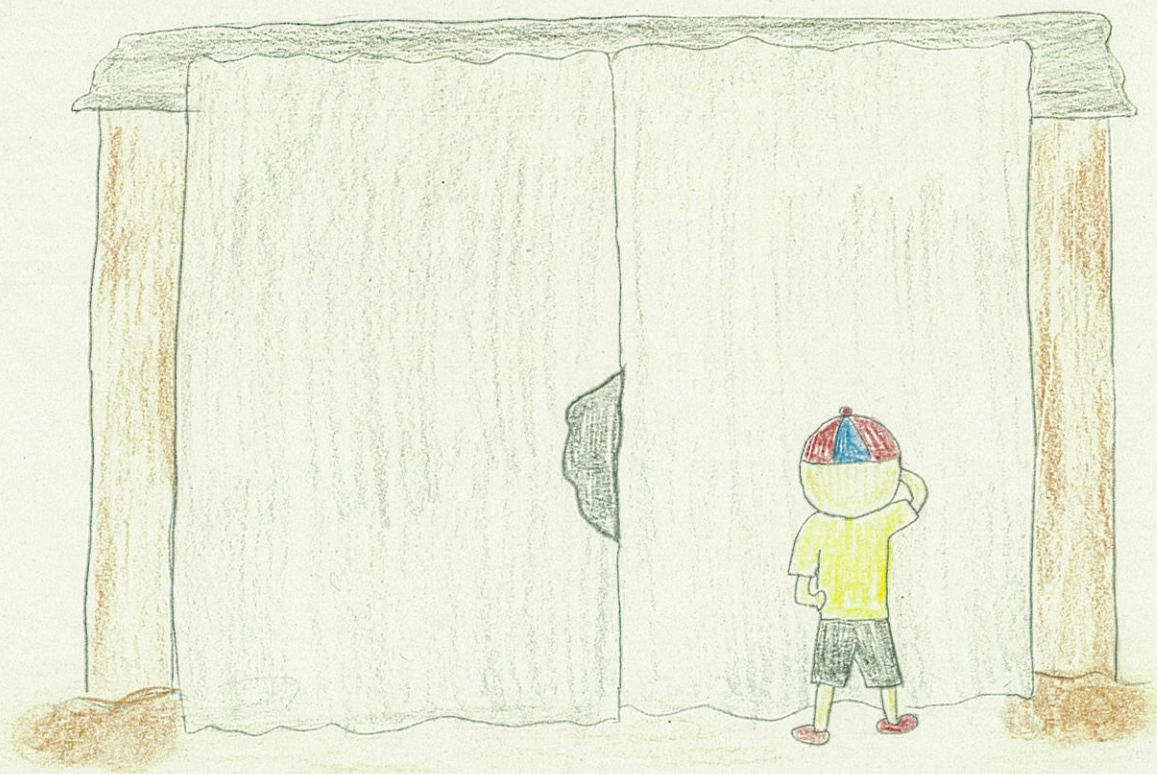
川やぼくのいえやぼくのともだちのいえがみわたせるばしょだった。ぼくはそこにひみつきちをつくろうと思った。



それからぼくはまいにちそこへかよいひみつきちを
つくった。







きがつくとなつがすぎあきになっていた。かれはが
たくさんおちていてふむたびに、パリッパリッとお
とがでてぼくはそのおとをたのしんだ。



しばらくして、ひみつきちがかんせいした。そしてそのころにはゆきがふるのをみておもった。ぼくのまちは、たくさんのいろがあるなあ。



このたくさんのお母さんが「ごはんよ。」といいにきたので
「はい！」と大きなこえでへんじをしていっしょ
にいえへかえった。

